

2015 年 6 月 ITU-R WP1C 会合報告書

- 【会合名称】 ITU-R WP1C 会合
 (電波監視に関する作業部会)
- 【会 期】 2015 年 6 月 3 日 (水) ~6 月 9 日 (火)
- 【開催場所】 スイス ジュネーブ ITU 本部
- 【概 要】

本会合は、今研究期間における第 4 回会合である。31 ヶ国の主管庁より 103 名、13 の関係機関より 22 名及び ITU 事務局より 2 名が参加した。合計参加人数は、127 名であった。日本からの参加者は、渡辺氏 (総務省)、荒田氏 (光電製作所)、上田氏 (三菱電機)、大木氏 (東芝)、小野氏 (NEC)、加茂氏 (キーサイトテクノロジー)、服部氏、小林氏 (NTT-AT)、鞆田氏 (MRI) の 9 名である。

日本、アメリカ、ドイツ、ロシア、中国、韓国、ローデ・シュワルツ社 (独)、MEDAV 社 (独)、WP1C 議長、各種コレスポンスグループ (以下 CG) 議長等からの寄与文書及び他グループからの連絡文書を含め合計 48 件 (1C/119~167、1C/138 は取り下げ) の文書が入力され、21 件の出力文書 (1C/TEMP/53~73) が作成された。

会議では、2 つの Working Group (WG) 等が設置され、各議題について審議が行われた。会議の構成は表-1 のとおりである。

また、表-2 に入力文書一覧を、表-3 に出力文書一覧を示す。

表-1 WP1C の会議構成と各グループの担当議題

Working Party 1C 議長 : Mr. Trautmann (ドイツ)
Working Group 1C-1 議長 : Mr. Higgins (米国) 担当 : 技術的な課題
Working Group 1C-2 議長 : Mr. Al-sawafi (オマーン) 担当 : 一般的な課題

その他、本会合における特記事項を以下に示す。

- ・ 次回の WP1C 会合は、2016 年 6 月 2 日~6 月 9 日にスイス ジュネーブで開催することとする。

1 Working Group 1C-1:技術的な課題（議長：Mr. Higgins（米国））

入力文書：1C/120, 1C/121, 1C/122, 1C/123, 1C/124, 1C/125, 1C/127, 1C/128, 1C/132, 1C/136, 1C/139, 1C/140, 1C/147, 1C/148, 1C/149, 1C/152, 1C/153, 1C/154, 1C/155, 1C/157, 1C/158, 1C/159, 1C/161, 1C/163, 1C/165, 1C/166

出力文書：1C/TEMP/53, 1C/TEMP/54, 1C/TEMP/59, 1C/TEMP/62, 1C/TEMP/63, 1C/TEMP/64, 1C/TEMP/65, 1C/TEMP/66, 1C/TEMP/67, 1C/TEMP/68, 1C/TEMP/69, 1C/TEMP/71, 1C/TEMP/72, 1C/TEMP/73

(1) 主要結果

- ・ 1C/TEMP/53：勧告文書 ITU-R SM.1600 『デジタル信号の技術的識別』の改訂案を作成した。
- ・ 1C/TEMP/54：勧告文書 ITU-R SM.1880-0 『周波数占有状況の測定』の改訂案を作成した。
- ・ 1C/TEMP/59：ITU-R 新勧告文書『DF 感度の測定』事前案のための CG の設置に関して、取り決め事項（TOR）を作成した。
- ・ 1C/TEMP/62：ITU-R 新報告文書『周波数占有状況の測定』の事前案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/63：ITU-R 勧告文書 SM.2061 『波面の歪みに対する DF の電磁耐性測定のための試験手順』のエディトリアルな修正案を作成した。
- ・ 1C/TEMP/64：ITU-R 勧告文書 SM.2060 『DF 精度測定のための試験手順』のエディトリアルな修正案を作成した。
- ・ 1C/TEMP/65：ITU-R 新勧告文書『DF 感度の測定』の事前案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/66：『屋内電波環境測定手法』に関する WP3L に対するリエゾン文書を作成し、WP3L に送付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/67：ITU-R 新勧告文書『屋内電波環境測定手法』の事前案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/68：ITU-R 新報告文書案『シミュレータを用いる、方向探知の精度及び電磁波耐性測定のための代替試験手順』を作成した。
- ・ 1C/TEMP/69：ITU-R 新報告文書案『電波監視の発展』を作成した。
- ・ 1C/TEMP/71：ITU-R 勧告文書『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/72：ITU-R 勧告文書『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書の見直しを作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/73：ITU-R 勧告文書『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書の修正提案を作成し、議長報告書に添付することとなった。

(2) 審議概要

1) ブロードバンド通信システムに使用されているデジタル変調技術の帯域外領域およびスプリアス領域における不要発射特性

入力文書：1C/120, 1C/132, 1C/136

出力文書：－

- ・ 1C/120 (WP1A)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/132 (WP5A)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/136 (WP5D)：WP1C としては情報として了知することとなった。

2) 無線周波数の利用が不可欠な電気通信システム間の両立性および有害干渉回避を目的とした適性評価の確保

入力文書：1C/121

出力文書：－

- ・ 1C/121 (WP1A) : WP1C としては情報として了知することとなった。

3) G.fast での使用を目的としたケーブリングの仕様・性能

入力文書 : 1C/123

出力文書 : -

- ・ 1C/123 (WP1A) : WP1C としては情報として了知することとなった。

4) K シリーズ勧告文書に対する ITU-R の関心

入力文書 : 1C/124

出力文書 : -

- ・ 1C/124 (WP1A) : WP1C としては情報として了知することとなった。

5) J.HiNoC システムからの無線周波エネルギーの漏出

入力文書 : 1C/125, 1C/128

出力文書 : -

- ・ 1C/125 (WP1A) : WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/128 (ITU-T SG9) : WP1C としては情報として了知することとなった。

6) 屋内電波雑音測定に関する情報文書

入力文書 : 1C/127

出力文書 : 1C/TEMP/66

- ・ 1C/127 (WP3L) : WP1C としては情報として了知することとなった。SM.1753 と関連する内容であるため、SM.1753 に関するリエゾン文書を送付することで、WP3L に対して回答を促すこととなった。

ITU-R 勧告 SM.1753-2 『電波雑音の測定手法』の改訂に関する議論に組み込まれた。(詳細は 12)項に記載)

7) 周波数占有状況の測定および評価

入力文書 : 1C/139, 1C/140, 1C/158, (1C/119 Annex 1)

出力文書 : 1C/TEMP/54 (Rev.2), 1C/TEMP/62

- ・ 1C/139 (ロシア) :
- ・ 1C/140 (ロシア) : ロシアから 1C/139 及び 1C/140 のように ITU-R 勧告 SM.1880 と ITU-R 報告文書 SM. 2256 を分けるべきという意見が表明され、支持された。ITU-R 勧告 SM.1880 改訂の作業は 1C/139 をベースにすることが確認された。
- ・ 1C/158 (中国) : 中国の寄書は 1C/119 を元にしたものであるため、1C/139 に統合する必要があるとのコメントがなされた。

中国の寄書とロシアの寄書を統合した ITU-R 勧告 SM.1880 の改訂案がオフラインにて作成された。本文書に関しては最適なサンプル数に関する議論がなされた。基本的な方向性としては各国主管庁に有用となる情報は文書内に残すこととなった。

ITU-R 勧告 SM.2256 の改訂事前案である 1C/140 については文書中で用いられる複数の用語の定義に関する質問がなされ、適宜説明が追記された。この内、lock-out measuring systems については明確な定義ができなかったため、次回会合に持ち越されることとなった。

ITU-R 勧告 SM.1880 については改訂案として SG1 に送致し、ITU-R 勧告 SM.2256 については議長報告書に作業文書として添付することとなった。

8) デジタル信号の技術的識別

入力文書 : 1C/147

出力文書 : 1C/TEMP/53 (Rev.2)

- ・ 1C/147 (米国) : 元の勧告文書のサイズが大きいため、修正を加えていない箇所について

は寄書から除外している旨が説明された。
数箇所エディトリアルな修正が加えられた後、改訂案として SG1 に送致することとなった。

9) DF 精度の实地測定

入力文書：1C/148, 1C/149(Rev. 1), 1C/152, 1C/155, 1C/159, 1C/161, 1C/165, 1C/166, (1C/119 Annex 2, 3)

出力文書：1C/TEMP/68, 1C/TEMP/64, 1C/TEMP/63, 1C/TEMP/71, 1C/TEMP/72, 1C/TEMP/73

本論点についてはシミュレータを用いた DF 精度の測定手法に関する議論と、DF 精度の实地測定に関する議論とが行われた。

〈シミュレータを用いた DF 精度の測定手法について〉

- ・ 1C/166 (CG 議長)：ドイツと中国より反対意見が提出されている旨が紹介された。1C/166 の文書に掲載されている日本寄書は CG に入力された際の文書であり、1C/161 の文書がドイツのコメントを受けた改訂版であるため、1C/161 を元に議論を行うこととなった。
- ・ 1C/161 (日本)：日本より、シミュレータを必要とする場合があること、および、既存勧告文書 SM.2060 および SM.2061 を代替する提案ではなく、Alternative なテスト手段を提供することが目的であることを説明した。

1C/161 に対し、各団体より以下の意見があった。

- 各メーカーの DF はそれぞれハードウェアが異なるので、シミュレータがうまく接続できるとは限らない。また、DF の性能はアンテナの能力とアルゴリズムに依存しており、主な能力はアルゴリズムで決まると考えられるが、アンテナの影響もある。そのため DF 受信機はアンテナと一組で考えられるべきものであり、アンテナが含まれない測定をすることは適切ではない。(MEDAV 社)
- 実フィールドの伝搬を模擬できるのか。キャリブレーション用のデータとして使用する OATS は特定のフィールドに強く依存するため、シミュレーションを行うことは適切ではない。本文書をレポートとしてはいけないのか。(MEDAV 社)
- モデルの中身が見えないことを懸念している。DF の主要部分はアンテナであるため、実験室レベルで使用するのは問題ないが、実際に製品を試験する際にアンテナは個別に試験されるべきで、アンテナを除外した評価では効果がない。データとしては興味ある結果である。(ローデ・シュワルツ社)
- シミュレータでどの程度まで模擬できるのか、キャリブレーションを適切に行えるのか、また複数波の時は設定をどうするのが不明確である。(中国)
- シミュレータの結果と OATS の試験を比較することが困難であることが問題である。シミュレータを用いると、基本的には OATS よりも良い結果が出てしまう傾向にある。(ドイツ)

日本からは HF 帯にて OATS が準備できなければシミュレータを使用するしか無いと反論を行ったが、会合としては本文書は有用な情報ではあるものの、SM.2060 や SM.2061 といった勧告群に取り込むことは適当ではなく、報告文書とすべきとの意向となった。また、ドイツからは、日本提案をまったく流してしまうのは惜しいとの意見が出された。

これを受け、日本より、議論をさらに持越すことを避けるため、報告文書とすることを表明した。またその場合、SM.2060 と SM.2061 からこの報告文書を参照するよう修正することを提案した。これに対して WP1C 議長が、報告文書を参照するために既存勧告文書を修正することは望ましくないとの意見が出されたが、日本より、SM.2060 と SM.2061 にすでにシミュレータに関する記述が存在するため参照を加えたいとの意見を表明し、日本意見が支持された。

現状の寄与文書を報告文書案の形式に変更するとともに、既存勧告文書の SM.2060 及び SM.2061 に関するエディトリアルな修正案を作成する作業が日本によりなされた。これらの文書はそれぞれ新報告文書案及び勧告文書のエディトリアルな修正案として SG1 に送致された。

<DF 精度の实地測定について>

- ・ 1C/165 (CG 議長) : CG 報告として、本文書を元に議論がなされることとなった。

本論点に関しては DG が設置され、本会合において最も多くの時間がかけられた。会合において、主に DF 精度と DF 感度を切り分けて考えるか、両者を含めた DF 性能として考えるかという点について議論がなされた。具体的には測定に使用する信号の SNR 及び変調方式に関する内容が主に議論された。

SNR については一定の SNR を使用するか、メーカーが精度を保証している最小の SNR を使用するかについて議論がなされた。米国からは弱電界においては DF 精度と DF 感度が密接に関連しているため、メーカーが指定した最小の SNR を用いるべきとの主張がなされたが、MEDAV 社やドイツからは SNR の影響を考慮に入れると DF 感度についても測定することになるため、切り分けて考えるべきであるとの主張がなされた。この主張に対しては日本や中国からも支持がなされた。議論の結果、SNR については 20dB 以上とすることとなった。また、実信号試験の場合はメーカーにより指定された最低 SNR 以上の既存無線局を使用することとなった。なお、試験を行う SNR については調達者とメーカーでの合意に基づき変更が可能であるとした。

変調方式に関しては主に米国、エジプト、ギリシャ、ルワンダ等から変調信号の試験を実施すべきとの主張がなされた。特にエジプトからは新興国にとって機器の調達は非常に労力がかかることであり、ITU-R 勧告にて単純化されたパラメータのみでは適切な機器調達が困難であることが背景にある旨が説明された。また、実体験として CW と変調信号 (FM 信号) とでは DF 精度に大きな違いがあったとの主張がなされた。

一方 MEDAV 社、ローデ・シュワルツ社、GEW、日本、中国等からは CW にて試験をすべきとの主張がなされた。ドイツからは DF のアルゴリズムは特定の変調信号には適切で無い場合があり、広帯域のほうが DF 精度が悪くなる傾向にあることは認識しているものの、实地測定においてはフィールド状況による DF 精度に対する影響を見るべきであるとの主張がなされた。

変調方式に関しては妥協案として白色ノイズを用いた試験等もローデ・シュワルツ社より提案されたが、MEDAV 社より实地試験における免許の問題が指摘され、また既存放送局を使用した試験が含まれており、この試験が有効に機能するという意見が出された。もし試験パラメータとして変調を設定しようとするとうり収拾がつかなくなるとも指摘した。

日本からは DF 性能に関わる文書について、単一波かマルチパスかという区別と、OATS や暗室で実施するか实地で測定するかという区別を合わせた 4 つの分類で考えるべきと提案された。その際、DF 感度や変調信号に対する DF 精度については単一波かつ OATS または暗室で試験されるべきとした。ドイツからも实地の測定では何が原因で性能が出ていないのかを明確にできないため、DF 感度や変調信号に関してはクリーンな環境でテストされるべきであり、感度と変調の影響についてはそれぞれ勧告化されるべきとした。

DG 議長より、上記の議論を受けて 2 つの提案がなされた。一つ目は日本が提案した分類のように論点を分けて議論を行う方向で、本会合では実信号試験を用いた変調信号の試験も含めた实地測定試験方法を策定し、次回会合以降に OATS・電波暗室における変調方式や DF 感度に関する試験について議論を行うという考え方である。もう一方は DF 性能として複数のパラメータをまとめるという考え方である。DG 議長の意見としては後者については非常に多くのパラメータが必要であり、時間がかかるとした。

変調信号の使用を支持する団体からは勧告化を遅らせるべきとの主張もなされたが、最終的に試験には CW を用い、変調信号に関しては試験地における実信号試験を行うことで妥結された。実信号試験に関しても変調方式は指定しないこととなった。

上記の議論に加え、本勧告文書の対象範囲について以下のような修正がなされた。

- 本試験方法は固定局だけでなく、モバイルやポータブルも含めることとなり、今後必要に応じて特定のシステムに適用する方法を追記していくこととなった。これに関連し、小型 DF やモバイル DF に関する記述を追加した 1C/152 も併せて議論されることとなった。
- 本試験が完全な受入試験となるわけではなく、受入試験の基礎になるものである旨が追

記された。

- 機器を設置することが決定した場所だけでなく、機器設置が計画されている場所での試験を行うことも想定されるため、試験場所を特定しない位置づけとなった。

また、SNR 及び変調方式以外のパラメータについては以下のような議論がなされた。

- 到来方位については仰角を持った信号は考慮しないこととなり、8 方位を測定することとなった。各方位の間隔については DF 機器から見た際の試験用送信機のそれぞれの方位間の角度が 30° 以下にならないようにする旨が確認された。ただし、DF システムが 360 度をカバーしない場合にはこの限りではない旨の注記がなされた。
- DF 機器から試験用送信機までの距離については当初中国より 8 つの方位それぞれに対して 3 種類の距離で測定すべきとの主張がなされたが、日本やローデ・シュワルツ社からは国によって多くの測定点を必要としない場合もあるため最低限のパラメータ数とすべきと指摘された。調整の結果、測定点は最少 8 地点として、異なる距離を含めることとなった。測定地点は利用者が選んでもよく、合意に基づいて測定地点を追加しても良い旨が示された。
- 測定を行う範囲については 20dB の SNR を維持できる範囲内での最長距離をカバレッジの限界と定義し、DF 機器から試験用送信機までの距離は本カバレッジ限界以内とすることとなった。
- 試験用送信機の見通しの有無については、中国が見通し外の試験を実施すべきとの主張を行った。また、Narda Safety Test Solutions 社からは見通し内のみでは測定地点数を確保できず、統計的に有意な測定とするためには障害物を含む測定とすべきとした。これに対しローデ・シュワルツ社、MEDAV 社、日本からは DF システムは到来方向を推定するものであり、見通し外で測定を実施しても送信機の場所は判明できないとのコメントがなされた。上記の議論を踏まえ、見通し外の試験に関する記述は削除されることとなった。
- 測定データの外れ値については場所ではなく、全ての周波数に亘る測定結果のうちの 10% を除外する旨がドイツより示された。これに対し、中国から 10% を外すためにはどのような計算を行えばよいか不明であるとの指摘がなされた。この点については次回会合に向けて検討することとなった。
- 試験用送信機に使用するアンテナについては MEDAV 社、ドイツからはオムニアンテナにすべきであるとした。これに対し米国、ルーマニア、中国からは SNR が 20dB 以上とする必要が有ることを考慮すると、アンテナの利得は必要であるため、アンテナについては限定すべきでないとした。日本からは実信号試験を行う際は送信側ではログペリオディックアンテナを使用しており、本勧告文書では選択可能にすべきとした。この点については次回会合に向けて検討することとなった。

上記の議論を踏まえ、本文書は更なる作業のために議長報告書に添付することとなり、合意を得られなかった点については次回会合までに議論がなされることとなった。また、小型 DF やモバイル DF に関する記述を追加した 1C/152 及び HF 帯の実地測定について記載した 1C/158 についてもそれぞれ議長報告書に添付することとなった。なお、1C/152 及び 1C/158 については DF 精度の実地測定に関する勧告文書に組み込まれる予定であることが確認された。

10) DF 感度の測定

入力文書：1C/153

出力文書：1C/TEMP/59, 1C/TEMP/65

- 1C/153 (中国)：本論点に関しては DF 精度の実地測定に関連する議題として議論が行われた。DF 精度の実地測定では DF 感度の観点は含めないことが合意されたため、本文書は別の勧告文書として取り扱われることとなった。本文書は更なる作業のために議長報告に添付され、次年度に持ち越されることが提案され、来年度に向けた作業において考慮すべき

点についての提案がなされた。

会合では関連する ITU 勧告文書・報告文書の欄に報告文書 ITU-R SM.2125 を加えるべきとの提案や、電波監視ハンドブックと同様のパラメータや単位を使用すべきとの指摘がなされた。

ローデ・シュワルツ社からは DF 感度の測定においては OATS での干渉の影響について考慮する必要があり、OATS での試験が適さない可能性があるとの指摘がなされた。また、適切な周波数範囲についても考慮する必要があるとの指摘がなされた。

日本からは積分時間を 2 秒としている理由について質問がなされ、中国より経験上 2 秒あれば安定した測定が容易である旨が回答された。また、測定結果の単位としては RMS であるのか、誤差の最大値であるのかとの質問がなされ、RMS ではない旨が回答された。積分時間や測定結果については来年度に向け考慮すべき点として追記された。

本文書については CG が設置され、中国の WANG 氏が議長を務めることとなり、作業文書及び CG 設置にあたっての取り決め事項 (TOR) が作成され議長報告書に添付することとなった。

11) 電波監視の発展

入力文書：1C/154, 1C/157, (1C/119 Annex 4)

出力文書：1C/TEMP/69

- ・ 1C/154 (中国)：中国より GROA (Gain Ratio of Arrival) という概念が示された。GROA は受信電力そのものではなく、各センサ間の受信電力の比によって測位を行うため、POA もしくは RSS とは異なるという説明がなされ、補足説明や参考資料を追記することとなった。
- ・ 1C/157 (中国)：本文書に対しても GROA について追記されるべきとの指摘がなされた。

会合では文書 1C/154 におけるコスト比較について適切な表現とすることが求められた。また、1C/157 に GROA を含めるにあたり文書構成が変更され、各測定手法のハイブリッド利用については一般的な表記とし、AOA と TDOA のハイブリッドについては具体的な事例として添付文書とされることとなった。また、文書 1C/154 については新報告文書案『電波監視の発展』の添付文書 2 として 1C/157 と統合され、SG1 に送致された。

12) ITU-R 勧告 SM.1753-2『電波雑音の測定手法』の改訂

入力文書：1C/122, 1C/163

出力文書：1C/TEMP/66, 1C/TEMP/67

- ・ 1C/122 (WP1A)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/163 (日本)：日本より屋内環境での電波雑音に関する修正箇所についての説明がなされた。議長及びドイツからエディトリアルな変更提案があるため、日本とオフラインで作業を行うこととなった。

1C/163 にて Single Carrier Noise (SCN) を測定対象としていることに関して、現実に屋内環境では SCN のような電波雑音が多く、無線システムはこれらに対処する必要があることは認められたが、一方で、WP3L が所掌する ITU-R 勧告 P.372『電波雑音』は、現在電波雑音の種類として SCN を含んでおらず、P.372 と矛盾が生じるのは避ける必要が有るとのコメントが寄せられた。

また、本勧告改訂案は多くの追記修正がなされており、内容が多岐に亘ることから、日本提出寄書から関連部分を分離し、屋内環境での測定のための新たな勧告文書を作成することとなった。ただしタイトルは、電波雑音という言葉避けて『屋内電波環境測定手法』とすることとなり、会期中に新勧告文書事前案を作成して提案を行った結果、これを各国当局が内容を理解するための時間を確保するという意味も込めて、WP3L に本勧告文書事前案の確認を依頼する連絡文書を送付することとなった。本連絡文書のコンタクトポイントは WP3L にも参加しているドイツの Hasenpusch 氏とされた。

日本からの寄与文書を基に作成された本新勧告事前案は、ITU-R 新勧告文書『屋内電波環境測定手法』の事前案に向けた作業文書として議長報告書に添付することとなった。

2 Working Group 1C-2: 一般的な課題（議長: Mr. Al-sawafi（オマーン））

入力文書：1C/126, 1C/129, 1C/130, 1C/131, 1C/133, 1C/135, 1C/137, 1C/141, 1C/142, 1C/143, 1C/144, 1C/145, 1C/146, 1C/150, 1C/151, 1C/156, 1C/160, 1C/162, 1C/164

出力文書：1C/TEMP/55, 1C/TEMP/56, 1C/TEMP/57, 1C/TEMP/58, 1C/TEMP/60, 1C/TEMP/61, 1C/TEMP/70

(1) 主要結果

- ・ 1C/TEMP/55：勧告文書 ITU-R SM.1875 『DVB-T 局の固定受信のためのサービスエリアの定義』の改訂原案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/56：新報告文書『衛星監視の測定手法および新技術』の事前案に向けた作業文書を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/57：新報告文書 ITU-R RA.[SATMON]の事前案に向けた作業文書に関する WP7D へのリエゾン文書の返答を作成し、議長報告書の添付文書の構成が決定した後に WP7D に送付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/58：報告文書 ITU-R SM.2257-2 『主要イベントにおける周波数管理と監視』の改訂案を作成した。
- ・ 1C/TEMP/60：ITU-R 新報告文書案『VHF/UHF 周波数帯における電波監視網の計画及び最適化の手順』を作成した。
- ・ 1C/TEMP/61：ITU-R 勧告文書データベース収録に向けた ITU-R 勧告文書（SM シリーズ）の精査を作成し、議長報告書に添付することとなった。
- ・ 1C/TEMP/70：ITU-R 新勧告文書案『電波監視用受信機の実出力データにおける時間情報の精度』を作成した。

(2) 審議概要

1) 3～50 MHz 周波数帯海洋レーダーによって使用される無線局識別信号（コールサイン）

入力文書：1C/131

出力文書：－

- ・ 1C/131（WP5B）：WP1C としては情報として了知することとなった。

2) 主要イベントにおける周波数管理と監視

入力文書：1C/143, 1C/146

出力文書：1C/TEMP/58

- ・ 1C/143（ブラジル）：
- ・ 1C/146（インドネシア）：

上記2文書に関してはトラウトマン WP1C 議長より、同じ種類のイベントに関する添付文書が次々に追加されることは望ましくなく、これまでと異なる内容、新たな知見となる情報が含まれる必要がある旨が表明された。また、すでに掲載されている添付文書についても内容を吟味する必要があるとされた。

1C/143 については構成を他の添付文書と一致させる作業が実施され、報告文書 SM.2257 の改訂案として SG1 に送致された。一方 1C/146 は新たな知見となる情報が含まれていないとし、WP1C としては情報として了知することとなった。

なお、今回 SM.2257 に追加されるブラジルの事例は 12 ページに及ぶが、今後追加される添付文書の上限の分量とされることとなった。

3) ITU-R 勧告文書データベース収録に向けた ITU-R 勧告文書（SM シリーズ）の精査

入力文書：1C/144

出力文書：1C/TEMP/61

- ・ 1C/144（ブラジル）：Fabio 氏により実施された作業結果にて、保留もしくは今後の作業が

必要であるとされた項目について議論されることとなった。

上記項目のうち、SM.1055 の扱いについては WP1C のスコープに合致しない旨がサマリーに記載されるべきとされた。無線業務の用語については電波天文業務等を含まない無線業務については「受動業務を除く全て (all except passive service)」とすることとなった。

また、ITU-R 勧告 SM.854 が対象としている周波数範囲が特定できない問題に関しては来年度に向けて作業を継続することとなった。

本会合での議論の内容や、1C/144 にて保留もしくは今後の作業が必要であるとされた項目についての対応状況についてとりまとめ、議長報告書に添付することとなった。

4) 電磁界の人体への危害

入力文書：1C/126, 1C/130, 1C/133, 1C/135, 1C/137, 1C/141, 1C/151

出力文書：－

- ・ 1C/126 (ITU-T WP 2/5)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/130 (イスラエル)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/133 (ITU-T SG2)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/135 (ITU-T SG5)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/137 (ITU-T SG5)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/141 (WP6A)：WP1C としては情報として了知することとなった。
- ・ 1C/151 (イスラエル)：WP1C としては情報として了知することとなった。

5) 電波監視ネットワークトポロジー計画の最適化

入力文書：1C/142, 1C/150

出力文書：1C/TEMP/60

- ・ 1C/142(ウクライナ)：本文書は 1C/150 の添付文書 1 として取り込まれているため、1C/150 にて議論されることになった。
- ・ 1C/150 (ロシア)：

会合では到来時間差 (TDOA) 手法の記載箇所における数値や図について、適切な内容とすることが米国に対して求められ、オフラインにて修正が実施された。また、位相ノイズの下限値については現状の電波監視ハンドブックには規定がない旨が指摘され、2002 年版の電波監視ハンドブックの値を参照することとなった。本文書についてはその他文書構成や単位系の修正等エディトリアルな修正が加えられた後、新報告文書案として SG1 に送致された。

6) 衛星の測定及び監視—新報告文書 ITU-R RA.[SATMON]の事前案

入力文書：1C/129, 1C/156, (1C/119 Annex 8)

出力文書：1C/TEMP/40

- ・ 1C/156 (中国)：ドイツより本文書には電波監視ハンドブックの内容が反映されていないことや、内容に不明確な箇所があることについて指摘された。本会合では中国が追記した修正履歴を反映し、新報告文書事前案に向けた作業文書として議長報告書に添付することとなった。また、他の主管庁に対しては新たな寄与文書の提出が求められた。
- ・ 1C/129 (WP7D)：WP7D からの連絡文書の内容は WP1C において作成されている新報告文書 SM.[SATMON]に含めることになった。WP7D に対して謝意を示し、WP1C の報告書に含む旨を連絡文書として返送することになった。

7) 無線局の調査

入力文書：1C/160

出力文書：－

- ・ 1C/160 (韓国)：

米国よりこれまでの添付文書と同じ内容が多く含まれるとの指摘がなされ、韓国側は重複する

内容はあるものの、新たな情報も含まれていると主張した。

ベルギーからは『主要イベントにおける周波数管理と監視』と同様に次々に添付文書が加えられることは望ましくなく、追加する際の判断基準を設けるべきとの指摘がなされた。韓国側は他の添付文書に含まれる情報と何が異なるのかが明確になるように文書を改訂し、本会合中に提示するとしたが、ドイツからは本会合中に修正を加えても参加者に受け入れられるとは限らないとの意見が示された。

これらの意見を受け、韓国は次回会合に改訂版を提出することになり、議長報告書には次回会合で議論するという旨を記載することになった。

また、WP1C 議長からは既存の添付文書を作成した他の国に対しても自国の添付文書についてレビューを求め、各国に特有の添付文書ではなくトピックごとの添付文書とするべきではないかとの意見が示された。

8) 監視用受信機の I/Q データへの高精度時間情報の挿入

入力文書：1C/145, 1C/162, (1C/119 Annex 7)

出力文書：1C/TEMP/70

- ・ 1C/145 (GEW) :
- ・ 1C/162 (日本) :

本論点に関しては CG が設置されていたが、CG レポートが作成されなかったため、主に 1C/92 や 1C/162 を元に作業が進められた。本論点に関しては DG が設置され、ローデ・シュワルツ社から DG の議長を出すことになった。

日本から提示したタイムスタンプ誤差の分解について、ローデ・シュワルツ社からはユーザは時間誤差の合計に興味があり、内訳について関心は無いと指摘されたが、米国より日本寄書のタイムスタンプ誤差の分解はよく考えられているとのコメントがなされ、勧告文書案に含まれることとなった。

本勧告について、米国からは試験方法は 1 種類ではなく、何を測るべきかが示されていることが必要であるという指摘がなされた。日本から重要な事は何を測定し、何を仕様書に含めるかという点であるとの発言がなされた。これに対し MEDAV 社からは試験方法を規定しないのであれば勧告文書ではなく、報告文書で良いのではないかと主張もなされたが、何を測定するのかを規定するという日本の主張が支持され、勧告文書とされることとなった。

DG では勧告本体部分について主に以下のような修正が加えられた。

- 勧告 2 には RF インプットコネクタを基準とする旨に変更された。
- 勧告 3 は外部時間との同期は何らかの方法で標準時との同期を維持するとの内容に修正されることとなり、これに伴い consideration b も修正されることとなった。
- 日本が追加した consideration c は重要性が高いとの理由で consideration b となることとなった。
- タイムスタンプの精度は参照時間と受信機により与えられたタイムスタンプとの差の平均値及び標準偏差により示されることとなり、その旨の勧告が追加された。
- 勧告 4 について、時間精度の測定方法例として添付文書に示す、との記載とされた。この際、試験方法は添付文書に示されている例のみに従うとは限らない旨が確認された。

オマーンや米国からは、文書のタイトルを日本の寄与文書のタイトルにすべきとの提案があり、会合にて採用された。

ロシアからは Time stamp の精度であるのか、Time information の精度であるのかという点について質問がなされ、Time information の精度となるように一部表記が修正された。

全スロット終了後に日本、米国、ローデ・シュワルツ社、MEDAV 社、GEW の代表によりオフラインにて調整がなされた。調整内容は主に日本が提案した測定方法の箇所についてであり、参照時間に対する同期誤差と、受信機内部で生じる伝搬遅延について区別するための試験についての記述は削除されることとなった。

本文書は新勧告文書案として SG1 に送致された。

9) I/Q データの保存のための統一的なデータ・フォーマット

入力文書：－

出力文書：－

寄与文書がなかったため検討の進め方について議論することとなった。

各主官庁及び製造業者に対し、寄与文書を入力することが求められた。米国からは I/Q データ・フォーマットの統一化を進めるのは製造業者にとっては非常に時間がかかるため、第一歩として製造業者が使用できるパブリックフォーマットを勧告化すべきとし、全てのメーカーが統一的なフォーマットを使用するのは次のステップであり、フォーマットを変換することで運用するのが現実的であるとした。また vita49 は米国内で多くの企業に使用されているため、その際に使用されると良いとした。GEW やローデ・シュワルツからも米国を支持する旨が示された。

本論点は昨年設置された CG にて引き続き議論を行うこととなった。

10) 中波帯における同期の測定・設定が重要となる地域

入力文書：1C/164

出力文書：－

- ・ 1C/164 (イラン)：WP1C 議長より、放送用送信機の同期に関連しており、WP1C の所掌ではなく、SG6 等に入力することが望ましいと指摘された。本文書は WP1C としては情報として了知することとなり、別の SG に入力されることとなった。

11) ITU-R 勧告 SM.1875 の改訂原案

入力文書：(1C/119 Annex 5)

出力文書：－

昨年度の会合から持ち越されたものの寄与文書の入力がなかったことが説明された。ドイツからは作業の進捗はないものの、会合の議題には含めておくべきという提案がなされ、本年度の議長報告書に 1C/119 添付文書 5 を一部修正し、添付することとなった。

表-2 入力文書一覧

文書番号	提出元	表題	
119	Chairman, WP 1C	Report of the meeting of Working Party 1C(Geneva, 3 - 10 June 2014)	WP 1C 会合の報告 (2014年6月3日～10日、ジュネーブ)
120	WP 1A	Liaison statement to Working Parties 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 6A, 7B, 7C and 7D (copy to Working Parties 1B and 1C) - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems	WP 4A, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 5D, WP 6A, WP 7B, WP 7C, WP 7D への連絡文書 (WP 1B、WP 1C にも参考送付) ブロードバンド通信システムに使用されているデジタル変調技術の帯域外領域およびスプリアス領域における不要発射特性
121	WP 1A	Liaison statement to ITU-T Study Group 15 and Cenelec (copy for information to ITU-R Working Parties 1C, 3L, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A and 7D) - Ensuring that telecommunication systems that depend on the use of radio frequencies have been properly assessed for compatibility and the avoidance of harmful interference	ITU-T SG15 および CENELEC への連絡文書 (WP 1C, WP 3L, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 6A, WP 7D にも参考送付) 無線周波数の利用が不可欠な電気通信システム間の両立性および有害干渉回避を目的とした適性評価の確保
122	WP 1A	Liaison statement to ITU-T Study Groups 5 and 15 (copy to ITU-R Working Parties 1C, 3L, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A and 7D) - Excessive levels of radio frequency noise in the environment	ITU-T SG5 および SG15 への連絡文書 (WP 1C, WP 3L, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 6A, WP 7D にも参考送付) 環境中の過剰な無線周波ノイズ
123	WP 1A	Liaison statement to the broadband forum (copy for information to ITU-T Study Group 15 and ITU-R Working Parties 1C, 3L, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A and 7D) - Specifications and performance of cabling intended for use with G.fast	ブロードバンド・フォーラムへの連絡文書 (ITU-T SG15 および ITU-R WP 1C, WP 3L, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 6A, WP 7D にも参考送付) G.fast での使用を目的としたケーブリングの仕様・性能
124	WP 1A	Liaison statement to ITU-T Study Group 5 (copy to ITU-R Working Parties 1C, 3L, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A and 7D) - ITU-R interest in K series Recommendations	ITU-T SG5 への連絡文書 (ITU-R WP 1C, WP 3L, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 6A, WP 7D にも参考送付) K シリーズ勧告文書に対する ITU-R の関心
125	WP 1A	Liaison statement to ITU-T Study Groups 5 and 9, and ITU-R Working Parties 1C, 3L, 4C, 5A, 5B, 5C and 7D - Leakage of radio frequency energy from J.HiNoC systems	ITU-T SG5, SG9 ならびに ITU-R WP 1C, WP 3L, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 7D への連絡文書 J.HiNoC システムからの無線周波エネルギーの漏出
126	ITU-T WP 2/5	Liaison statement on information about work that is being carried out within work under study in ITU-T Question 7/5	ITU-T の Q7/5 に基づく現在進行中の作業についての連絡文書
127	WP 3L	Reply liaison statement to Working Party 1C - Information documents on indoor noise measurement	WP 1C への連絡文書 (返信) 室内ノイズ測定に関する情報文書
128	ITU-T SG 9	Liaison statement on leakage of radio frequency energy from J.HiNoC systems and coexistence of wired telecommunications with radiocommunication systems - Considerations with respect to work on Recommendation ITU-T J.195.1 (J.HINOC-REQ)	J.HiNoC システムからの無線周波エネルギーの漏出および有線通信システムと無線通信システムの共存に関する連絡文書 - 勧告文書 ITU-T J.195.1 (J.HINOC-REQ)の作業に関わる検討事項
129	WP 7D	Liaison statement to Working Party 1C - Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R RA.[SATMON]	WP 1C への連絡文書 新報告文書 ITU-R RA.[SATMON]の事前案に向けた作業文書
130	Israel (State of)	RF Human hazards - Intersectoral activities	無線通信周波数の電磁波の人体への危害 (部門を越えた活動について)
131	WP 5B	Liaison statement to Working Parties 1C, 5A and 5C - Station call-sign identification to be used by oceanographic radar in frequency band 3 to 50 MHz	WP 1C、WP 5A、WP 5C への連絡文書 3～50 MHz 周波数帯海洋レーダーによって使用される無線局識別信号 (コールサイン)
132	WP 5A	Liaison statement to Working Party 1A (copy for information to Working Parties 1B, 1C, 4A, 4C, 5B, 5C, 5D, 6A, 7B, 7C and 7D) - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communications systems	WP 1A への連絡文書 (WP 1B、WP 1C、WP 4A、WP 4C、WP 5B、WP 5C、WP 5D、WP 6A、WP 7B、WP 7C、WP 7D にも参考送付) ブロードバンド通信システムに使用されているデジタル変調技術の帯域外領域およびスプリアス領域における不要発射特性

文書番号	提出元	表題	
133	ITU-T SG 2	Liaison statement from ITU-D Study Group 2 Question 7/2 to ITU-T Study Group 5 , ITU-R Study Group 1, ITU-R Study Group 5, ITU-R Study Group 6 and their relevant Working Parties on Q7/2 work items for the 2014 - 2018 study period	ITU-D SG2, Question7/2 から、ITU-T SG5、ITU-R SG1,SG5 及びその他関連作業部会に対して、2014~2018 年の Q7/2 での議題についての連絡文書
134	Chairman, SG 1	Results of the 21st RAG meeting (Geneva, 24 to 27 June 2014)	第 21 回無線通信アドバイザーグループ(RAG) 会合討議結果 (ジュネーブ、2014 年 6 月 24 日~27 日)
135	ITU-T SG 5	Liaison statement on ITU-T Question 7/5 work items for the 2014-2018 study period (reply to ITU-D Study Group 2 - Document 2/113)	現行研究期間 (2014~2018 年) における ITU-T 研究課題 7/5 の作業事項に関する連絡文書 (ITU-D SG 2 寄与文書 2/113 に対する返信)
136	WP 5D	Liaison statement to WP 1A (copy for information to WPs 1B, 1C, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 6A, 7B, 7C and 7D) - Characteristics of the unwanted emissions in the out-of-band and spurious domains for digital modulation technology used in broadband communication systems	WP 1A への連絡文書 (WP 1B, WP 1C, WP 4A, WP 4C, WP 5A, WP 5B, WP 5C, WP 6A, WP 7B, WP 7C, WP 7D にも参考送付) ブロードバンド通信システムに使用されているデジタル変調技術の帯域外領域およびスプリアス領域における不要発射特性
137	ITU-T SG 5	Liaison statement on comments to the WHO Monograph "Radio Frequency fields: Environmental Health Criteria, Chapter 2: Sources, measurements and exposures"	世界保健機関(WHO)無線周波環境保健基準モノグラフ 第二章『電磁界源、測定、曝露』へのコメントに関する連絡文書
138	BR Study Groups Department	This document has been withdrawn	取り下げ
139	Russian Federation	Draft revision of Recommendation ITU -R SM.1880 - Spectrum occupancy measurement	勧告文書 ITU-R SM.1880-0 「周波数占有状況の測定」の改訂案
140	Russian Federation	Proposal for revision of Report ITU -R SM.2256 - Spectrum occupancy measurements and evaluation	報告文書 ITU-R SM.2256 「周波数占有状況の測定および評価」の改訂案
141	WP 6A	Liaison statement to ITU-R Study Groups 1, 3, 4, 5 and 7, ITU-T Study Group 5 and ITU-D Study Groups 1 and 2 - Human exposure to RF fields from broadcast transmitters	ITU-R SG 1、SG 3、SG 4、SG 5、SG 7、ITU-T SG 5、ITU-D SG 1、SG 2 への連絡文書 放送用送信機が生成する RF 電磁界への人体の曝露
142	Ukraine	Working document towards the Report ITU-R SM.[PLANNING_SMN] - Optimization of the planning of spectrum monitoring networks topology in VHF/UHF range using irregular model of monitoring networks	報告文書 ITU-R SM.[PLANNING_SMN]に向けた作業文書 非規則的な監視ネットワークモデルによる VHF/UHF 帯電波監視ネットワークトポロジー計画の最適化
143	Brazil (Federative Republic of)	Spectrum management activities for the FIFA Soccer World Cup 2014 Brazil	2014 FIFA ワールドカップ (ブラジル大会) における周波数管理活動
144	Brazil (Federative Republic of)	Report to Working Party 1C on the review of ITU-R Recommendations in the SM Series for the database on ITU-R Recommendations	ITU-R 勧告文書データベース収録に向けた ITU-R 勧告文書 (SM シリーズ) の精査に関する WP 1C への報告
145	GEW Technologies (Pty) Ltd.	Preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[DOC. _ _ _ _] - Inserting highly precise time information in I/Q data of monitoring receivers	新勧告文書 ITU-R SM.[DOC. _ _ _ _]の事前案に対するコメント 監視用受信機の I/Q データへの高精度時間情報の挿入
146	Indonesia (Republic of)	Proposed modifications to Report ITU-R SM.2257-2 - Spectrum management and monitoring during major events	新報告文書 ITU-R SM.[MAJOR_EVENTS]の事前案に向けた作業文書
147	United States of America	Proposal for the revision of Recommendation ITU-R SM.1600 - Technical identification of digital signals	勧告文書 ITU-R SM.1600 の改訂案 デジタル信号の技術的識別
148	MEDAV 社 GmbH	Review of working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurements of DF accuracy	新勧告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案に向けた作業文書の精査 DF 精度の実地測定

文書番号	提出元	表題	
149	GEW Technologies (Pty) Ltd.	Comments on the working document toward a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurements of DF accuracy	新勧告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案に向けた作業文書へのコメント DF 精度の実地測定
150	Chairman CG on Planning SMN	Preliminary draft new Report ITU-R SM.[PLANNING_SMN] - Procedures for planning and optimization of spectrum-monitoring networks in the VHF/UHF frequency range	新報告文書 ITU-R SM.[PLANNING_SMN]の事前案 VHF/UHF 周波数帯を対象とした電波監視ネットワークの計画及び最適化のための手順
151	Israel (State of)	RF Human hazards - ITU Intersectoral activities	無線周波数による人間への健康被害 - ITUの他部門における活動状況
152	Greece	Review of working document toward a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurements of DF accuracy	新勧告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案に向けた作業文書の精査 DF 精度の実地測定
153	China (People's Republic of)	Proposal for a new Recommendation on test procedure for measuring direction finder sensitivity - Test procedure for measuring direction finder sensitivity	方向探知機の感度測定のための試験手順に関する新勧告文書の提案 方向探知機の感度測定のための試験手順
154	China (People's Republic of)	Proposed contribution to the working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SM.[SPEC_MON_EVOLUTION] - The grid monitoring experimental network for metropolitan environment in Shanghai, China	新報告文書 ITU-R SM.[SPEC_MON_EVOLUTION]の事前案に向けた作業文書への寄与文書案 上海（中国）の大都市環境におけるグリッド型監視実験ネットワーク
155	China (People's Republic of)	Working document toward a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurement of DF accuracy	新勧告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案に向けた作業文書 DF 精度の実地測定
156	China (People's Republic of)	Working document towards a preliminary draft new Report - Measurement techniques and new technologies for satellite monitoring	新報告文書の事前案に向けた作業文書 衛星監視の測定手法および新技術
157	Chairman, CG on Spectrum Monitoring Evolution	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SM.[SPEC_MON_EVOLUTION] - Spectrum monitoring evolution	新報告文書 ITU-R SM.[SPEC_MON_EVOLUTION]の事前案に向けた作業文書 電波監視の発展
158	China (People's Republic of)	Proposed revisions to Recommendation ITU-R SM.1880 - Spectrum occupancy measurement	勧告文書 ITU-R SM.1880 の改訂案 周波数占有状況の測定
159	China (People's Republic of)	Proposal on the modification of the working document toward a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-Site Measurements of DF Accuracy	新勧告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案に向けた作業文書の修正案 DF 精度の実地測定
160	Korea (Republic of)	Proposed revision to Report ITU-R SM.2130 - Inspection of radio stations	報告文書 ITU-R SM.2130 の改訂案 無線局の調査
161	Japan	Proposal for a preliminary draft new Recommendation on alternative test procedure for measuring accuracy and immunity of direction finder using a simulator	シミュレータを用いる、方向探知の精度及び電磁波耐性測定のための代替試験手順に関する新勧告草案の提案
162	Japan	Proposal for a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[Precision of time information in output data of monitoring receivers] - Precision of time information in output data of monitoring receivers	「電波監視用受信機の出力データにおける時間情報の精度」に関する新勧告草案
163	Japan	Proposed preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SM.1753-2 - Methods for measurements of radio noise	ITU-R 勧告 SM.1753-2 の改訂提案 電波雑音の測定手法
164	Iran (Islamic Republic of)	Critical area for measuring and setting synchronization in medium frequency	中波帯における同期の測定・設定が重要となる地域

文書番号	提出元	表題	
165	CG on DF Accuracy	Report of Correspondence Group Activity on preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurement of DF Accuracy	新報告文書 ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC]の事前案 DF 精度の実地測定
166	CG on DF Accuracy	Report of Correspondence Group Activity on preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[Doc.XXX] - Proposal for a new Recommendation on alternative test procedure for measuring accuracy and immunity of direction finder using a simulator	新勧告文書 ITU-R SM.[DOC.XXX]の事前案に関するコレスポネンスグループ活動報告 シミュレータを用いた方向探知機の精度および電磁波耐性の測定のための代替的試験手順に関する新勧告文書案
167	BR Study Groups Department	List of documents issued (Documents 1C/119 - 1C/167)	寄与文書一覧 文書番号 1C119 - 1C/167

表-3 出力文書一覧

文書番号	表題		備考 (提出元)
53	Draft modification of Recommendation ITU-R SM.1600-1 - Technical identification of digital signals	勧告文書 ITU-R SM.1600 『デジタル信号の技術的識別』の改訂案	WP1C
54	Draft modification of Recommendation ITU-R SM.1880-0 - Spectrum occupancy measurement	勧告文書 ITU-R SM.1880-0 『周波数占有状況の測定』の改訂案	WP1C
55	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SM.[DVB-T_SERVICE_AREA]	勧告文書 ITU-R SM.1875 『DVB-T 局の固定受信のためのサービスエリアの定義』の改訂原案に向けた作業文書	WP1C
56	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SM.[SAT-MON] on Measurement techniques and new technologies for satellite monitoring	新報告文書 『衛星監視の測定手法および新技術』の事前案に向けた作業文書	WP1C
57	Reply Liaison Statement to working party 7D - Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R RA.[SATMON]	新報告文書 ITU-R RA.[SATMON]の事前案に向けた作業文書に関するWP7Dへのリエゾン文書の返答	WP1C
58	Draft modification of Report ITU-R SM.2257 "Spectrum management and monitoring during major events"	報告文書 ITU-R SM.2257-2 『主要イベントにおける周波数管理と監視』の改訂案	WP1C
59	Correspondence Group the development of a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[DF SENSITIVITY] - Terms of reference	ITU-R 新勧告文書 『DF 感度の測定』事前案のための CG の設置	WP1C
60	Draft New Report "Procedures for planning and optimization of spectrum-monitoring networks in the VHF/UHF frequency range"	ITU-R 新報告文書案 『VHF/UHF 周波数帯における電波監視網の計画及び最適化の手順』	WP1C
61	Review of ITU-R Recommendations in the SM Series for the database on ITU-R Recommendations	ITU-R 勧告文書データベース収録に向けた ITU-R 勧告文書 (SM シリーズ) の精査	WP1C
62	Working document towards a preliminary draft modification of Report ITU-R SM.2256 - Spectrum occupancy measurement and evaluation	ITU-R 新報告文書 『周波数占有状況の測定』の事前案に向けた作業文書	WP1C
63	Draft editorial modification of Recommendation ITU-R SM.2061-0 - Test procedure for measuring direction finder immunity against multi-path propagation	ITU-R 勧告文書 SM.2061 『波面の歪みに対する DF の電磁耐性測定のための試験手順』のエディトリアルな修正案	WP1C
64	Draft editorial modification of Recommendation ITU-R SM.2060-0 - Test procedure for measuring direction finder accuracy	ITU-R 勧告文書 SM.2060 『DF 精度測定のための試験手順』のエディトリアルな修正案	WP1C
65	Working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[DF_SENSITIVITY] - Test procedure for measuring direction finder sensitivity	ITU-R 新勧告文書 『DF 感度の測定』の事前案に向けた作業文書	WP1C
66	Liaison Statement to Working Party 3L -Indoor Noise Measurements	『屋内電波雑音測定』に関する WP3L に対するリエゾン文書	WP1C
67	Working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[INDOOR RADIO ENVIRONMENT]	ITU-R 新勧告文書 『屋内電波環境測定手法』の事前案に向けた作業文書	WP1C
68	Draft new Report ITU-R SM.[DF-SIMULATOR] on alternative test procedure for measuring accuracy and immunity of direction finder using a simulator	ITU-R 新報告文書案 『シミュレータを用いる、方向探知の精度及び電磁波耐性測定のための代替試験手順』	WP1C
69	Draft new Report ITU-R SM.[SPEC_MON_EVOLUTION] - Spectrum monitoring evolution	ITU-R 新報告文書案 『電波監視の発展』	WP1C
70	Draft new Recommendation ITU-R SM.[I/Q_Timing] on precision of time information in output data of monitoring receivers	ITU-R 新勧告文書案 『電波監視用受信機の出カデータにおける時間情報の精度』	WP1C
71	Working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurement of DF accuracy	ITU-R 勧告文書 『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書	WP1C

文書 番号	表題		備考 (提出元)
72	Review of working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurement of DF accuracy	ITU-R 勧告文書『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書の見直し	WP1C
73	Proposal on the modification of working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R SM.[ON-SITE_DF_ACC] - On-site measurement of DF accuracy	ITU-R 勧告文書『DF 精度の実地測定』の事前案に向けた作業文書の修正提案	WP1C

以上